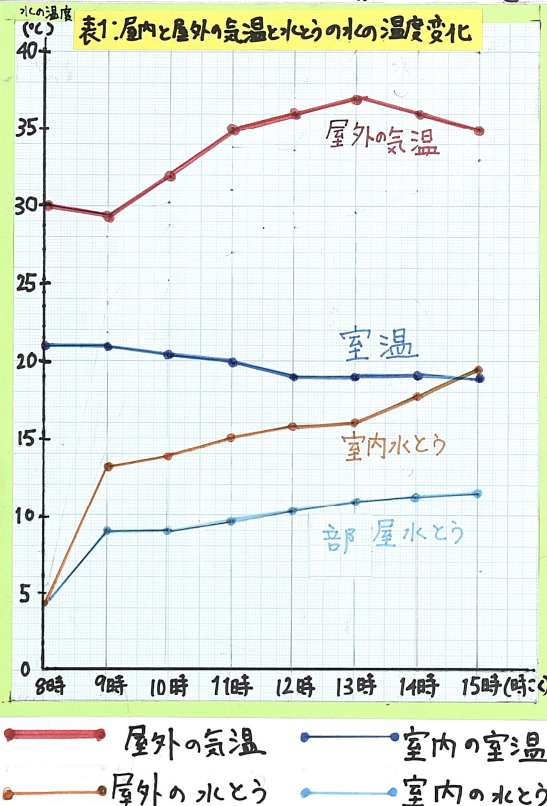


くらべて発見! 1番

冷たく飲めるのはど水

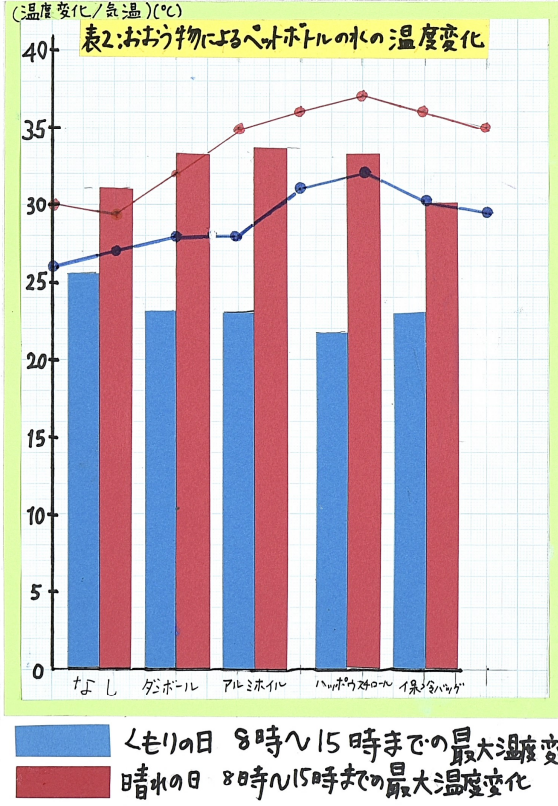
はじめに 夏は冬にくらべて、学校に持って行った水とうのお茶が早くぬるくなる。暑い夏でもどうしたら長時間冷たく保管できるのか気になった。外の気温やよう器中身を変えて飲み物の温度がどのように変化していくか、くわしく調べた。

実験A 気温による飲み物の温度変化
晴れた日の屋外と冷ばうのいた室内で水とうに入れた水の温度を1時間ごとに測定した。
日時: 7月20日 天気: 晴れ
場所: 屋外→バルコニー→室内→自らくし室
保冷水とうに400mlの水を入れて高さ20cmの台に置く



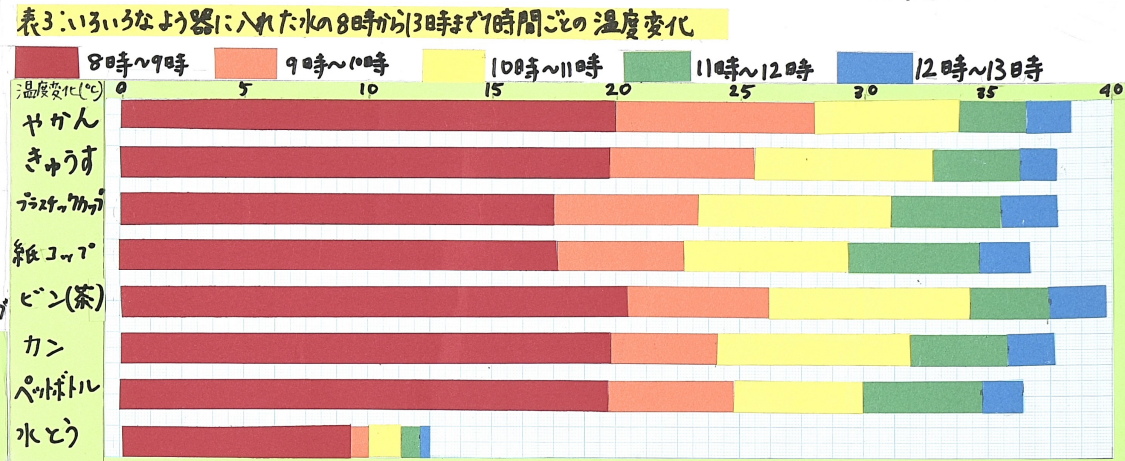
屋外も屋内も水とうの水は温度が上がっていた。屋外は屋内よりも温度の上昇が高かった。屋外の水とうは気温の約2倍も低く保冷こうかが強まることが分かった。

実験B おおう物による飲み物の温度変化
ペットボトルを色々な物でおい屋外においた。ペットボトルに入れた水の温度を1時間ごとに測定した。
日時: 7月15日(くり), 7月20日(晴れ)
場所: 屋外→バルコニー
おおう物: タンボール、PMミホイル、ハッポウスチロール、保冷バッグ



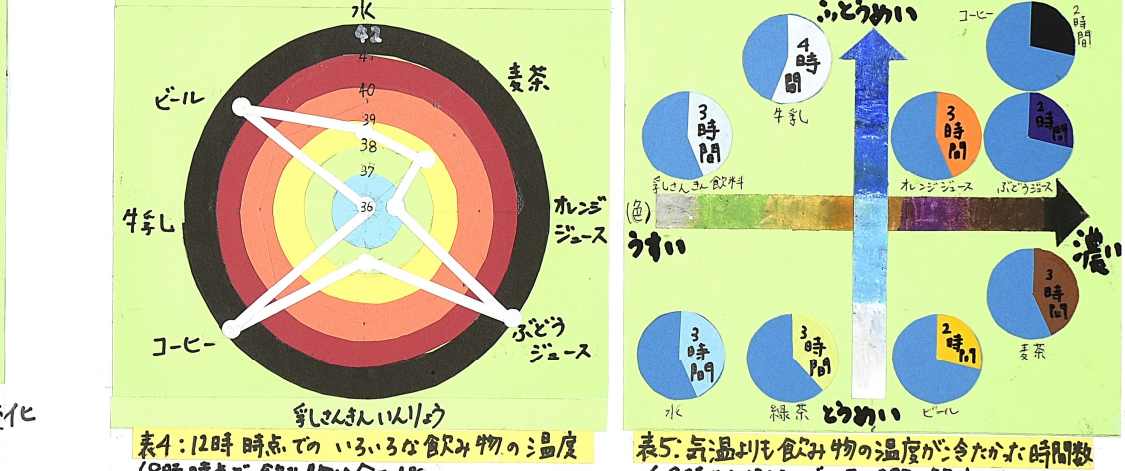
どれも、くもりの日より晴れの日の方が水の温度は高くなった。晴れの日、ペットボトルをおおうと熱がもって屋外の陽当たりにおくよりも、屋内や日かげにおくと冷たく保てることが分かった。おおう物がないときよりも水の温度が高くなると考えた。飲み物の温度が上がらず、中身が見えるよう器の時は水やお茶が冷たく飲めておススメだと思

実験C よう器による飲み物の温度変化 水とうの他に飲み物を保管するよう器に水(400ml)を入れて屋外においた。よう器の中に入れた水とうの温度を1時間ごとに測定した。



各時間帯の中で、全のよう器で8時~9時の1時間の温度変化が1番大きかった。水とうは保冷こうかにすぐれており、どの時間帯においても温度の変化が1番小さかった。

実験D 飲み物による温度変化 色々な色の飲み物をペットボトル(400ml)に入れて屋外においた。ペットボトルに入れた飲み物の温度を8時から13時まで1時間ごとに測定した。



まとめ 暑い夏は、飲み物を水とうに入れると保冷こうかが入るにことば分かった。飲み物の色が濃い